演題番号55

左袖が通せなかった左半側空間無視患者が一人で服を着ることができるまで
- 左側の外空間と身体空間を認識して行為をするために -

○久岡 由依[1)] 森岡 啓太[1)] 加藤 大策[1,2)] 沖田 学[1,2)]

1) 愛宕病院 リハビリテーション科
2) 愛宕病院 脳神経センター ニューロリハビリテーション部門

【はじめに】
今回，受動性注意の低下による外部空間と左上肢の忘れや袖を通し忘れるといった身体空間での無視症状を認めた症例に対し，受動性注意課題と体性感覚に基づく課題を実施した結果，無視症状の改善を認めたので報告する．

【症例】
症例は右MCA領域の梗塞により左片麻痺と左半側空間無視を呈した70台女性である．発症後約1ヶ月の左側評価はBRS上肢・手指全てⅢで，感覚は表在深部覚ともに軽度鈍麻であった．BIT通常検査は108点，行動検査67点で抹消検査では左側優位に減点を認め，全般的な見落としも認めた．@Attentionでの能動性注意評価では全対象を検出できた．一方で，受動性注意課題では左空間の反応時間の遅延を認めた．また，注視分析評価では右空間ばかり注視していた．Catherine Bergego Scaleでは観察と自己評価に乖離を認めた．ADLでは左上肢の忘れや袖の通し忘れを認め，課題時も左側身体の体性感覚情報を基に左空間への探索が困難であった．

【病態解釈】
腹側注意ネットワークの損傷により生じた右側への過剰注意によって左空間の狭小化といった症状に加え，体性感覚に準じた身体認識の低下が身体空間での無視と身体失認の症状を出現させていると解釈した．

【方法】
受動性注意課題を近位空間から開始し段階的に遠位空間にて実施した．方法はレーザーポインターを用いてランダムに照射された刺激に対して反応させた．課題中は頭頸部及び視線の右偏位を認めていたため中央の固視点に必ず視線を戻すよう視覚的に誘導した．並行して体性感覚情報を基に両上肢の比較照合課題と外部座標へ到達する空間課題を実施した．

【結果】
課題後4ヶ月のBIT通常検査107点，行動検査72点と抹消検査における左側優位の無視は軽減したが全般的な見落としは残存した．@Attentionでの受動性注意評価は左右空間ともに反応時間の短縮を認めた．ADL上では左上肢の忘れや袖を通し忘れるといった身体空間での無視症状は改善した．

【考察】
今回，体性感覚情報に基づく介入により左上肢への認識が向上し，さらに身体を基準とした空間の再構築により身体空間における無視症状が改善したと考えた．加えて，身体を基準に受動性注意という腹側経路の機能に着目した介入が無視症状の改善の要因であった．

【倫理的配慮，説明と同意】
発表に際し症例と家族に説明し同意を得た．